

## 国語科指導法の授業実践報告（3）

～さまざまな授業手法を使って言語活動を行う～

北角 尚治（愛知大学 非常勤教員）

**要約:**学習指導要領では言語活動が重視され、「主体的・対話的で深い学び」が求められている。言語活動を重視した授業は児童生徒の学びを変え、考える力を付けることにつながるものであると考える。では、具体的にどのような授業を行えばよいのか。国語科指導法Ⅱの授業では、言語活動を中心にした授業を研究し、模擬授業を行ってきた。その実践報告である。

### 1 はじめに

現在、私は教職課程の国語科指導法Ⅰ～Ⅲを担当している。これらの科目は授業の実践力を付けることを目的とした科目である。2021年度より教職課程の科目構成が変更になり、Ⅲが新たに加わった形である。この3つの科目は国語科の教職課程を履修している学生は全員が受講する科目であり、同じメンバーがⅠからⅢへステップアップする形で学んでいる。ⅠからⅢの目標は次のように設定している。

国語科指導法Ⅰ：教科指導の基本を学ぶ。  
 国語科指導法Ⅱ：生徒の主体的な活動を取り入れた教科指導法を研究する。  
 国語科指導法Ⅲ：目的に応じた様々な指導法を探求し、発展的な学びにつなげる授業を考える。

受講している学生たちの教員採用試験を受験する校種は小学校から高等学校までさまざまであるが、全員が真剣に教員を目指している。幸いなことに、ここ数年の本学の国語科の教員採用試験の合格率は高く、学生たちも実践力を付けるために真摯に授業に取り組んでいる。

この教職課程研究年報には、一昨年、昨年と国語科指導法の授業の実践報告をしてきた。昨年の国語科指導法Ⅲの報告に続き、今年国語科指導法Ⅱの報告を行っていく。

### 2 国語科指導法Ⅱの具体的展開

#### (1) 学習指導要領で求めている言語活動

国語科指導法Ⅱの授業で求めているのは、さまざまな授業手法を使って言語活動を行うというものである。言語活動については、学習指導要領に次のように書かれている。

#### ○中学校 第1学年 A話すこと・聞くこと<sup>(1)</sup>

(2)(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。

イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。

○中学校 第2学年 B書くこと<sup>(2)</sup>

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。

その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動。

イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする活動。

○中学校 第3学年 C読むこと<sup>(3)</sup>

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。

○高等学校 言語文化 C読むこと<sup>(5)</sup>

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。

イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

エ 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。

○高等学校 現代の国語 C読むこと<sup>(4)</sup>

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、

言語活動についてはかなり具体的に書かれているが、実際に授業に取り入れていくには個々の教材に合った形で、具体的な問にしていくことが求められる。そこを実践的に挑戦しているのがこの授業である。

## (2) なぜ、言語活動が有効か

一つ前の学習指導要領の段階ですでに言語活動の重視は言われていたが、現行の学習指導要領になって、さらに求められるようになっていく。アクティブラーニングという言葉が先行して広まったことにもその端緒はうかがえるが、教師から生徒への一方通行の授業ではなく、生徒自身が活動することによる学びへとの変化が求められている。

私自身は、現在も非常勤として高等学校の国語の授業を教えている。その授業での感触からもこの学びの有効性は実感できている。具体的な内容もこの報告の中で随所に述べていくことになると思う。

言語活動を重視することが、なぜ有効であるかについて、私は次の2点をあげたい。

一つは、生徒の学びという視点からである。

言語活動を行うことにより、「主体的な学び」ができ、それにより児童生徒の考える力が育成される。このことは次のような生徒の声からも明らかである。

- ・自分一人で考えるのではなく、グループワークというのがとても楽しかった。自分にはない意見を共有することができたし、より突っ込んだ問いがあったり、深く勉強することができてとてもよかった。ただ読んで終わりではなく、こちらに考えさせるものばかりで、前より力がついた気がします！
- ・これまでと授業形態が大きく違ったので、最初は時間内に自分の意見を考えることがあまり出来なかったのですが、だんだ

ん慣れてきてポイントを押さえて読むことが出来る様になってきました。現代文の力がついてきたのが目に見えて嬉しかったです。

- ・今まで現代文の授業はノートをとって暗記すると思っていましたが、この1年で自分で考えて取り組むということを学ぶことができました。評論文の読み方を変えたら、成績も上がったので進歩があった1年でした。<sup>(6)</sup>

これらは私自身が非常勤として務めている高等学校の生徒の反応であるが、現代文の授業であっても、生徒たちは覚えることが中心で、考えることをしてこなかったということもうかがえる。これは教える側の責任とも言える。また、これらの言葉からは、「対話的学び」や「深い学び」ができていくこともうかがえる。いずれにしろ、言語活動を重視することで、生徒の学びが変わったことがうかがえる。

二つ目は、教師の側からの視点である。

言語活動は言い換えれば、一つの学習の型を作っていくということである。ある程度大きな課題を与え、生徒自身にしっかりと考えさせていくことになる。これは、教師の話術のテクニックや教え方のテクニックに大きく左右されないということである。

この授業を受講している学生たちは、数年後には一人で教壇に立つ者たちである。ベテランの教師に交ざって、授業をしていかなければならない。そんな未熟な教員であっても、しっかりと言語活動の課題を作ることができ

れば、生徒の「主体的な学び」を作り出すことができる。

こうした点からも、この授業で言語活動を重視した授業手法を実践していくことの意義があると考えている。

### (3) 導入として行っていること

授業の導入として、実践例を紹介している。ここでは梶井基次郎の『檸檬』を使って、さまざまな授業手法を紹介した例をあげたい。

- ① Yチャートを使って主人公の心に影響を与えるものを分析する

シンキングツールは授業手法を考えたときにとても有効なものだと考える。一人一台タブレットが学校現場に普及している中で、ロイロノートにも入っているシンキングツールは、実際によく使われているものである。ロイロノートのHP<sup>(7)</sup>を使って、学生たちにも紹介している。

Yチャートは、「多面的に見る」「分類する」ということに有効なツールである。これを活用して、『檸檬』の中に登場する、「主人公の心に影響を与えるもの」を分

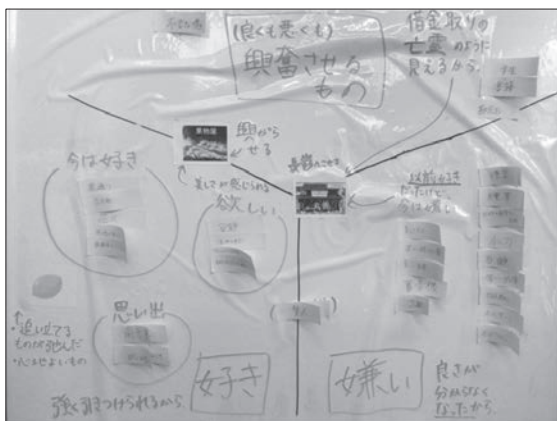
類するという作業（言語活動）を行う。

この作業においては、〈どこでもシート〉と付箋を使う。〈どこでもシート〉は、静電気によって壁などに貼れ、ホワイトボードのように使えるパイロット万年筆の製品である。こうした教具を知ることこの授業においては大事な要素だと考えている。

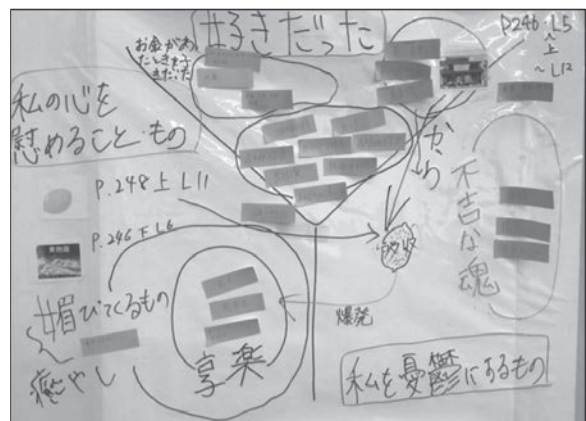
気づいたことを付箋で各自がシートに貼り、それをグループでまとめていく作業である。【資料1】【資料2】のようなものができあがる。

- ② 心の折れ線グラフを描いて主人公の心理の起伏を考える

次の手法は、主人公の心の動きを折れ線グラフで表すものである。ただ単純にグラフを描くだけでなく、そのターニングポイントに説明を加えていくことで、理解を深めていくものである。【資料3】のようなものができあがる。さらに、この折れ線グラフをグループごとに発表させて、その特徴を【資料4】のような表にまとめる。この発表は同時展開で行い、

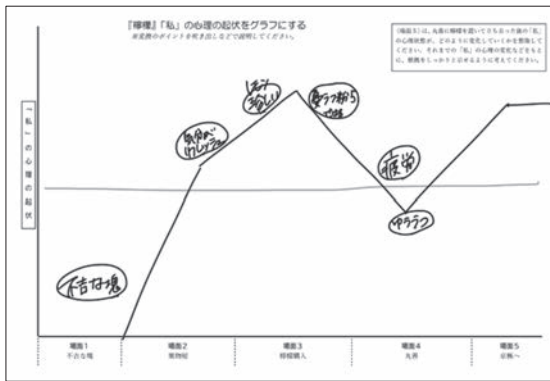


【資料1】『檸檬』のYチャート例①



【資料2】『檸檬』のYチャート例②





【資料3】心の変化の折れ線グラフ

グループ	「私」のその後の状況	なぜそのように考えたか（理由）	その後の状況
グループ	下がる	自分を責めるのは、 しるべきことだから	海軍が負けたのは、 しるべきことだから
B	下がる	自分を責めるのは、 しるべきことだから	海軍が負けたのは、 しるべきことだから
F	（興奮がたまっている） いつか下がる	自分を責めるのは、 しるべきことだから	海軍が負けたのは、 しるべきことだから
E	上がったまま	覚悟と克服して進んでいける ようにしたから	海軍が負けたのは、 しるべきことだから
D	上がったまま	覚悟と克服して進んでいける ようにしたから	海軍が負けたのは、 しるべきことだから
A	上がったまま	覚悟と克服して進んでいける ようにしたから	海軍が負けたのは、 しるべきことだから

【資料4】まとめた表

各グループから他のグループにメンバーが別れて聞きに行き、まとめるという手法を使った。

③ 〈檸檬〉をテーマにした他の作品と比較する

最後に、発展的内容として〈檸檬〉がテーマになっている他の作品と比較読みをさせる。取り上げたのは、高村光太郎「レモン哀歌」、米津玄師「Lemon」、芥川龍之介「蜜柑」である。「蜜柑」は〈檸檬〉ではないが、「檸檬」同様に〈蜜柑〉が小説の中で大きな役割を担っている作品であるので、取り入れた。それぞれの作品で〈檸檬（蜜柑）〉がどのように扱われているかを、グループで自由に話し合わせるというものである。

実際の授業ではかなりの時間を取って行う①～③の内容を、凝縮して実践とともに紹介し、学生の模擬授業の参考にさせている。

3 模擬授業例

学生が実際に行った模擬授業の例を紹介していく。

この授業では、事前にどのような手法（言

語活動）を使って授業を行うかを私と打ち合わせをすることになっている。よりよい授業を組み立てるためにできる限り綿密に事前の打ち合わせを行い、場合によっては用いる手法などもこちらから提案している。学生たちがこれまでに受けてきた授業の中では、さまざまな授業手法についての経験が乏しいのが現状であり、どのようなものがあるのかを示していくことも必要であると考えている。

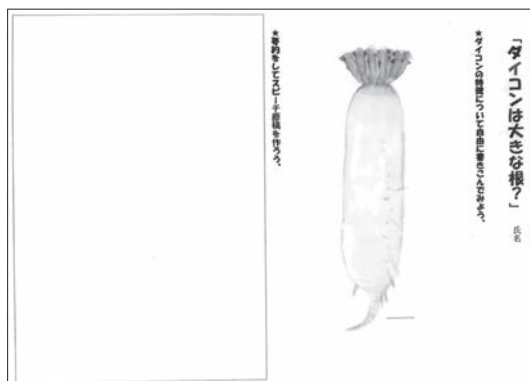
模擬授業の後には学生たちによる研究協議を行い、よかった点や問題点の指摘、改善策などを話し合うようにしている。さらに、最後に私の方から指導助言をしている。また、授業終了後には担当した学生と簡単な反省も行っている。それらを踏まえて、学習指導案を書き直し、提出して、模擬授業の完了となる。

なお、これらの模擬授業は基本的にグループワークで行われている。扱う教材によるが、最初に個人で考え、その後グループワークを行っていく方法を基本にしている。ただ、模擬授業なので、学生が模擬生徒となり参加しているが、当該学年の生徒になりきって授業を受けることはなかなか難しく、優秀な生徒ばかりになってしまっているのは課題である。

【授業例】は、どのような授業手法を使ったかを《言語活動》としてまとめ、その《目的》を示し、私からの補足やまとめを《コメント》として載せた。

【授業例 1】「大根は大きな根」(中学 1 年)<sup>(8)</sup>  
 《言語活動》どこでもシートに大根の絵を描き、本文の内容を大根の部位ごとにまとめる。  
 《目的》本文の内容を具体的につかむ。  
 《コメント》大根の絵を描くことから始めているので、グループワークとしては盛り上がりがあった。また、指導者も黒板に大きな大根の絵を貼るようにして説明していたのがよかった。

【授業例 2】「大根は大きな根」(中学 1 年)  
 《言語活動》段落ごとに切り分けた本文を配布し、内容や接続に留意して本来の順に並べる。  
 《目的》文章の構成を理解する。  
 《コメント》1と同じ教材であるが、まったく違う手法を使っている。また、このやり方は、実際の現場で多く使われているものである。この授業でも、なぜその順になるのかを説明させていたのはよかった。模擬生徒役の

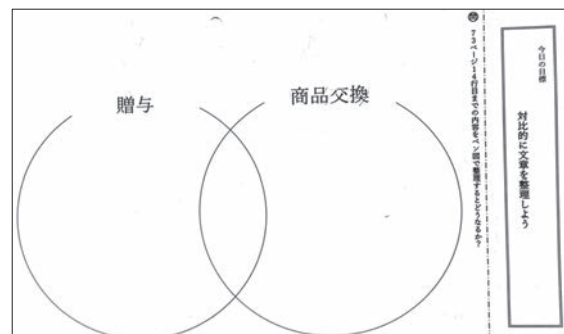


【資料 5】「大根は大きな根」のワークシート

学生は、敢えてまちがえることもしていた。教師役の学生も対応の見せ所であった。各グループ用に切り分けたものを用意したり、黒板にも貼れるものを用意したりと事前準備がていねいにできていた。タブレットが活用できれば、画面上の操作でできるようにしても面白いと思う。

【授業例 3】「贈り物と商品の違い」(高校・論理国語)<sup>(9)</sup>

《言語活動》ベン図を使って本文の内容を対比的にまとめる  
 《目的》本文の対比構造をつかむ  
 《コメント》この授業は指導法Ⅲで行われたものであったが、シンキングツールを生かし



【資料 6】最初のワークシート (ベン図)

	時間差	儀礼	送贈品	等価性	★ スマイル	★ 演出	★ 感情
贈り物							
商品							

【資料 7】修正後のワークシート (マトリックス)

た授業であったので、こちらに掲載した。シンキングツールを活用して内容を整理させるというねらいはよかったのだが、本文の内容がいろいろな項目について述べられているものだったので、マトリックスを使った方がよいと研究協議で指摘があり、学習指導案のリライトに生かされた。

**【授業例4】「羅生門」(高校・言語文化)<sup>(10)</sup>**

《言語活動》老婆の被害報告書を書く。

《目的》老婆の側から見た下人の行動をつかむことで、老婆の心理を理解する。

《コメント》老婆の心理をつかむ方法としては面白いものであったが、老婆を一方的な被害者としてしまうと、この小説の大きなポイントを外してしまうことになるのではないかと指摘があった。すなわち、老婆の言葉によって下人は次の行動を決定している。この指摘によって学習指導案のリライトでは「下人が老婆に掛けた言葉を現代の言葉で書き換える」と変わってきたが、これだけではまだ十分な読みにつなげられないと言えよう。

小説のリライトは人物の心情理解に有効な手法であるが、どの部分を、どのようにさせ

るかが十分に考えられていないと有効な読みにつながらないので注意が必要である。また、このような活動の場合は、個人で書いたものをグループで読み合わせて、そこから心情をつかんでいくというステップがよいと思われる。

**【授業例5】「羅生門」(高校・言語文化)**

《言語活動》5W1Hを押さえて小説の冒頭部分を整理する。

《目的》小説の舞台設定を捉えることで描かれていることをしっかりとつかむ。

《コメント》5W1Hを押さえることは、小説や古典の読みにおいては大事なことであり、この手法はさまざまな教材に利用可能である。「羅生門」の場合はどこまでの範囲で押さえるかや、どこまで細かなところまで考えていくかによって、小説の主題に迫ることもできる。これと近いもので「羅生門の絵を描く」というものもあった。こちらはどれだけ正確にこの場面を押さえているかがわかる手法である。

**【授業例6】「モアイは語る——地球の未来」(中学2年)<sup>(11)</sup>**

《言語活動》タブレットを活用して本文に書かれていることを検証する。

《目的》本文の内容を批判的の読みによって検証する。

《コメント》一人一台タブレットにより、いわゆる「調べ学習」は一段とやりやすくなったと考えられる。この授業では、単純に調べるのではなく、本文に書かれていることと違う考え方を探すというものである。具体的に



【資料8】「羅生門」のワークシート

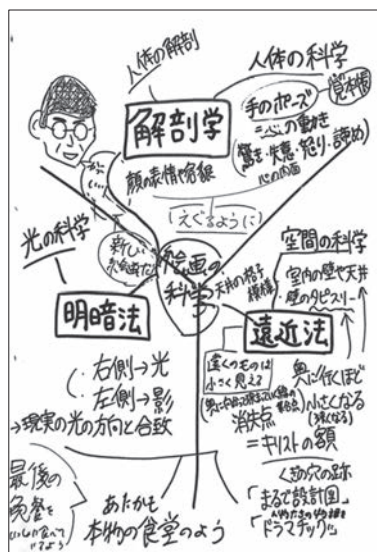
は「モアイはなぜ作られなくなったか」「イースター島の文明はなぜ滅んだか」のさまざまな論を探し、自分なりに検証していくというものである。〈本文に書かれていること＝唯一の事実〉と捉えてしまいがちな児童生徒にとっては有効な学習方法だと考える。

**【授業例7】「君は『最後の晩餐』を知っているか」(中学2年)<sup>(12)</sup>**

《言語活動》Yチャートを使って『最後の晩餐』に用いられている絵画の科学をまとめる。

《目的》書かれている内容を視点を絞って整理する。

《コメント》このYチャートの使い方は有効なものであった。さらに、この整理を踏まえて本文の主題に迫ることができたのもよかった。この授業も〈どこでもシート〉を使って実施した。



【資料9】〈どこでもシート〉のYチャート例①

**【授業例8】「俳句の可能性」(中学3年)<sup>(13)</sup>**

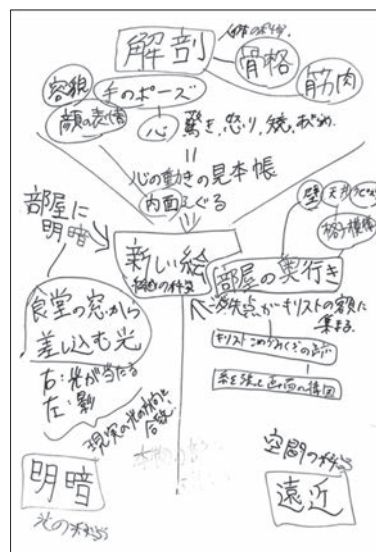
《言語活動》俳句から読みとれる場面を絵に描き、説明を加える。

《目的》俳句の内容を具体的に捉える。

《コメント》俳句は映像的に捉えられるものが多いので、面白い手法である。今回は、絵だけでなく説明も求めたので、よりわかりやすくてきたと思う。ただ、絵を描くことで時間的な問題が生まれてくるかもしれない。また、指導者役である学生の俳句の理解不足、というよりも自然や風物の常識的理解が不足していることも痛感させられた。十分な教材研究や、日頃からの意識が大事であると感じた。

**【授業例9】「空気を読む」『個人』から『分人』へ<sup>(14)</sup>**

《言語活動》二つの文章の主張の違いを比較する。／参考資料のグラフと本文の関連を読み解く。



【資料10】〈どこでもシート〉のYチャート例②



《目的》比較読みをすることで筆者の主張をつかむ。

《コメント》この教材は新しい学習指導要領を受けて、比較読み及び図表を絡ませた読みを意識して教科書に採られたものである。短い時間で二つの文章を読み、ポイントをつかむという授業であったが、実際にこれからの授業で求められるものであると思う。また、グラフを本文と関連させて読み解く方は、教科書に掲載されているグラフが本文に関連させるには少し無理があると言わざるを得ないものだった。教科書も含め、こうした教材開発は今後求められるものであると思う。

#### 【授業例10】「奥山に猫またといふものありて」（高校・言語文化）<sup>(15)</sup>

《言語活動》一読して、この話のオチをつかもう。

《目的》古典の面白さを知る。

《コメント》この授業は、はじめて読む古文の面白さをつかむというものである。ていねいな読みをしてから、話のポイントを考えるのではなく、初読でポイントをつかませる試みである。

文法中心の古文の授業ではなく、古文の面白さを伝える授業への転換が求められている中でのよい取り組みであると言える。しかし、模擬授業後の研究協議では古典入門当初の生徒には難しいのではないか、等の意見が結構出された。学生自身が受けてきた古文の授業がまさに文法中心のものであり、まず文法から入るといふ授業形態しか知らないために戸惑った者が多かったと感じられた。実際に高

校現場で私が同様の授業を実践した際には、生徒は十分に理解することができていた。受講している学生の多くは国語、それも古典を得意としている者たちであることを考えると、まさに古典の授業のあり方を変えていく必要があることを痛感させられた授業でもあった。

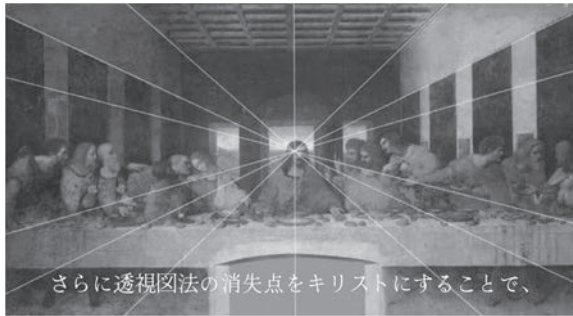
## 4 動画作成

毎年、この授業では教科書の内容を動画にして伝えるという課題を課している。2021年度の教職課程研究年報にその詳細を載せているが、今年度も次のような要領で学生に課題を与えた。

課題：「モアイは語る」「ダ・ビンチは語る」  
～モアイやダ・ビンチになって  
現代の人々に訴える～

- ① プレゼンテーションソフト（パワーポイントかGoogleSlide）や動画のアプリなどを使って、動画を作成してください。
- ② 「モアイは語る」「君は『最後の晩餐』を知っているか」の本文を踏まえ、さらに教科書には示されなかった見方、自分の意見などを題材として、モアイもしくはダ・ビンチに語らせてください。
- ③ 3分以内で作ってください。
- ④ オリジナリティー溢れる、ユニークな作品を期待しています。

この課題は、学校現場で一人一台タブレットが普及したことによって、児童生徒に動画を作成させる場面が実際に出てくることを想



【資料11】 動画の場面の例①



【資料12】 動画の場面の例②



【資料13】 動画の場面の例③



【資料14】 動画の場面の例④

定して、自分たちも一度作ってみることが必要だという思いから設定したものである。学生が作成してくる動画のレベルは年々向上してきている。それは、スマホなどでも使い勝手のよいアプリが次々と生まれていることが大きく影響していると思われる。ただ、そういったことに習熟していない学生もおり、彼らにとってはよい体験の場となっている。

始めた当初と大きく変わってきたのは、音声の扱いである。昨年はほぼ全員が自動音声で作成していたので、今年度は、国語の授業としてそれはどうなのかも含めて、使い方を考えてほしいという課題も与えた。その結果、自分で音声を入れたものや、対話形式にして一方を自動音声にしたものなどが出てきた。それぞれに工夫がなされていた。

## 5 考察と課題

### (1) 言語活動を中心にした授業のメリット

言語活動を重視して、児童生徒が活動する場面を増やしていくことをねらいとして模擬授業を行ってきたわけであるが、このような授業はこれまでの授業と何が大きく異なるのかを整理しておきたい。

簡単にまとめれば、それは〈細部の読み→全体の読み〉の流れを〈全体の読み→細部の読み〉に変えたことである。また、〈教師→生徒〉の流れを〈生徒→生徒〉に変えたことである。

具体的に、上記の【授業例7】で取り上げた「君は『最後の晩餐』を知っているか」を例にとって説明したい。

この文章は、レオナルド・ダ・ビンチの「最後の晩餐」が絵画の科学を駆使して描かれて

いることを紹介したものである。ここで紹介されている絵画の科学とは、「解剖学」「遠近法」「明暗法」である。

これまでの教師主体の授業であれば、それぞれがどのようなものであるかを、本文に沿って順に読んでいくものになるはずだ。そして、それらの内容を板書し、生徒はそれをノートに写す。このような授業形態になるのではないだろうか。

今回の模擬授業では、生徒に対して与えられた課題（指示）は「『最後の晚餐』に用いられている絵画の科学をYチャートにまとめよう」である。そして、個々で考える時間が与えられ、その後、グループワークによって〈どこでもシート〉を使ってYチャートにまとめていく。

教師は、グループワークの進捗状況を確認しながら、助言をしていく。この助言が大事で、生徒が気づいていない点に気づくことができるようなヒントを与えたり、間違った方向へ進みそうなグループを軌道修正していく。

生徒は、Yチャートを作成する段階で席を立て、どこでもシートの回りに集まる形で作業が進んでいく。生徒の動きからしても活動的である。Yチャートを作成していく過程で、繰り返し本文を読み、書かれていることを理解し、わかりやすく整理していく。さらにわからない用語などが出てきたら、タブレットを使って調べる。「主体的な学び」が展開されていく。学力差は当然あるが、生徒たちは教えあいながら進めていく。

時間設定が慣れないうちは気になるが、今回の課題であれば、Yチャートをまとめるま

で1時間使うのがよいと思う。余裕を持った時間設定の方が生徒たちはよりよい工夫や発見をしてくれる。これは私の経験からも言える。同じ内容を教師主導型の授業で行った場合は、もっと時間がかかってしまうはずだ。その上、生徒たちは自分で読んでいない分、頭にも入っていないことが多い。

【資料9・10】は模擬授業時に学生たちが作成したものであるが、中学生でも同じようなものが作成できるはずである。もっとカラフルなものになるに違いない。

このように〈全体の読み→細部の読み〉、すなわち、全体を読んでまとめていく作業をしながら、結果的に細部まで生徒自身で読んでいくことになる。〈生徒→生徒〉の授業形態である。その結果、上述した生徒のアンケートにあるように、学び方が変わることで、読む力が付いていくことになる。

## （2）言語活動を中心にした授業の留意点

このような授業を展開していく際の留意点として3点あげておきたい。

一つ目は、指示を明確にすることである。

大きな問を与えて考えさせる、作業させる授業になるので、何をするのかを生徒に明確に伝えることが大事である。これがなされていないと、授業が混沌としたものになる可能性がある。そのために、口頭で指示するだけでなく、板書やプリントなども使って、生徒が絶えず確認できるようにすることも必要である。模擬授業の中でも、この部分の指示が明確でないものも多くあった。

二つ目は、机間指導の重要性である。

これは上述したが、生徒の活動中に教師は机間指導しながら助言していく。この助言によって、生徒の活動内容が大きく変わっていく。それは、個々やグループの進捗状況や理解度によって異なってくるものではあるが、それぞれに合わせた的確な助言を与えることが大切である。一つの助言で生徒の活動内容は飛躍的に変わっていくこともある。机間指導はただグループワークの状況をぐるぐる回って見るのではなく、一つのグループにしばらく留まって話し合いを聞くことも大事である。考察の過程や何につまずいているのかがわかり、的確な助言につなげることができる。

三つ目は、どのような課題を設定するかである。

これは、どういう問をするかと言い換えてもよい。そして、これが最も大事なポイントである。

まず、生徒が何を聞かれているかがはっきりとわかることが大事である。これは一つ目に書いた指示の明確性にもつながることである。大きな問であれ、小さな問であれ、授業の中で何を聞かれているのかが生徒に十分に伝わっていないことは意外と多い。そして、教師がそのことに気づいていない場合も多い。わかりやすい問を心がけることが必要である。

また、この例に示したようなグループワークで行うような課題については、その課題を十分に吟味することが求められる。注意しておきたいのは、簡単に答えが出てしまうような問、また、グループ間で差が出ない内容になってしまう問はグループワークには向か

ない。グループワークを行う意義があるような課題、問を発することが必要である。例えば次のようなものが考えられる。

- ①グループごとで答えが異なるものになるもの。
- ②答えを一つに絞れないもの。
- ③作業をする中で学びあいが行われるもの。

①は、いわゆるオープンエンドの間ではあるが、グループワークの中で議論があり、その議論を経てグループとしての考えを一つにまとめる、というような問がこれに該当する。

②は、①と同じようなものに見えるが、ここでは次のようなものを指している。例えば段落の要約や筆者の考えをまとめるといった問をしたときに、グループ間に少しずつ差異が見られる、このような問のことである。答えの幅を示せたり、キーワードなどを確認できる。

③は、例として説明してきたパターンである。作業的な要素は多いが、生徒には満足感があり、理解も進むものである。

この、どういう課題を設定するか、どういう問を発するか、は教師にとっては永遠の課題と言ってもよい。問一つで授業が活性化もするし、盛り上がらないものにもなる。絶えず、よい課題、よい問を模索し続けていかなければならない。

## 6 終わりに

最後にもう一つの課題をあげておきたい。

それはICTについてである。この報告の中でも、一人一台タブレットについて触れて



きた。小中高ともに現場のICT活用はコロナ禍によって一気に加速した。その結果、一人一台タブレット、PCは常識になった。ところが、使われている機種、ソフト等は校種間や地域によって異なっている。ただ、このような課題は実際に現場に出れば使えるようになるだろうと思う。

問題なのは、教職課程で指導法を学ぶこの授業で、実際に使われている機器やソフトが使えないことである。大学の教室もプロジェクタなどはよいものになってきている。しかし、学生たちの持つPCはそれぞれに異なったものであり、当然、児童生徒が使っているものとは違うものである。使いたいソフトも入っていない。

今年度、教職課程センターの御尽力により、ロイロノートの入ったタブレット10台が整備された。台数的にはまだ十分とは言えないが、大きな前進である。来年度はこのタブレットも活用した形での模擬授業の実践に取り組んでいきたい。

## 【注】

- (1) (2) (3) 中学校学習指導要領（平成29年度告知）（文部科学省 HP：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/)）
- (4) (5) 高等学校学習指導要領（平成30年度告知）（文部科学省 HP：[https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_6\\_1\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf)）
- (6) 2021年度に行った生徒へのアンケート結果をもとにしている。
- (7) ロイロノート HP「シンキングツール（思考ツール）を学ぶ」（<https://n.loilo.tv/ja/thinkingtool>）
- (8) 文部科学省検定済教科書38光村国語704中学校国語用「国語1」
- (9) 文部科学省検定済教科書50大修館書・現国707高等学校国語「新編現代の国語」
- (10) 高等学校の「言語文化」の教科書に多数採用されている。
- (11) (12) 文部科学省検定済教科書38光村国語804中学校国語用「国語2」
- (13) 文部科学省検定済教科書38光村国語904中学校国語用「国語3」
- (14) 文部科学省検定済教科書50大修館書・現国706高等学校国語「現代の国語」
- (15) 文部科学省検定済教科書50大修館書・言文706高等学校国語「新編言語文化」他